

RUBeC 演習を終えて

中村 公彦

Kimihiko NAKAMURA

機械システム工学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は、8月13日～29日に開講された RUBeC 演習に参加してきました。演習は、アメリカ合衆国カリフォルニア州バークレーの浄土真宗センターにある龍谷大学の教育・研究の海外拠点である「Ryukoku University Berkeley Center (RUBeC)」で行われました。内容は、テクニカルライティングとプレゼンテーションの学習、企業訪問、提携大学への訪問です。

2. 参加した目的

私は、英語が大変苦手で、英語に関しては不安でした。しかし、近年、グローバル化により海外で働く日本人が増え、英語を話すことは必要不可欠なことであるとも思っていました。また、私はこれまで海外に行ったことが無く、英語が苦手なこともあり海外に行くことに不安を感じていました。そこで、この演習に参加することで海外に行き、海外に対する不安が少しでも解消することを目的として参加しました。

3. 授業内容

3.1 テクニカルライティング

この授業では、自分が書いた研究の英文要旨の文章校正を行うものでした。まず、基本的な文法特に冠詞の“a”, “an”, “the”の使い分けや接続詞の使い分けについて勉強しました。他に、2人組になってお互いのことを紹介する文章を書いたり、世界で起こっている問題の原因と結果について英文で書いたりする練習をしました。英語の文章は接続詞や代名詞を用いてなるべく1文にするというのが印象的でした。3つの文を1つの文にするという練習は

難しいと感じました。最終日には、自分の研究についてクラスの人と1対1になって軽い説明を行うことをしました。自分の研究のこととはいえ英語でわかりやすく説明するのは結構難しいと思いましたが良い勉強になりました。

3.2 プレゼンテーション

この授業では、英語のプレゼンテーションの方法について学びました。授業では自分が選んだ内容について2分間でスピーチしたり、英語の発音の勉強をしたりしました。

発音の勉強では“L”と“R”の発音の違いや英単語の音節、発音の強弱について勉強しました。特に、“L”と“R”の発音は日本語ではないので大変でした。他にも英語を話す際の文の区切り方の大切さを教えてもらいました。区切る位置を間違えると全然違う意味に聞こえてしまうので英語の発表の際は気を付けたいと思いました。

また、発表の際、アイコンタクトやジェスチャーが大切ということも教えてもらいました。これらのことは、これからも意識して発表に臨みたいと思います。

スライドを作る際、大切なことについて教えてもらいました。スライドにはたくさんのことを載せるのではなく、なるべくシンプルに見やすいように載せることが大切だということも教えてもらいました。これは、どの内容が発表をする上で大切なことなのかを考えなくてはならず、情報を絞るということは大切なことだと思いました。

4. 企業訪問

8月17日に Thermal Technology 社を訪問させていただきました。この会社は従業員が40人ほどの小さな会社で、主に焼結や焼きなましに使用する高温炉の設計、製造を行っている会社です。特に、プラズマ焼結 (SPS) 法を取り入れた高温炉を製造していて、この会社は SPS 炉をアメリカで初めて製造した会社です。

SPS 法は焼結を行う方法の1つです。この方法は密度や組成に偏りが無い均一な焼結体を作成することができ、また、焼結を補助する材料を添加しなくても焼結が簡単にできるので材料をよく生かすことができます。この方法は世界でもそれほど多くは広まっていないので広めようと世界中をまわり説明しています。

この会社では、製品の設計、製造、販売を行っています。設計は顧客の要望を聞いたのち行うため、製品の完成は2週間ほどかかるそうです。しかし、この部分に顧客が満足するものを作るという意気込みを感じました。顧客は予定している焼結がうまくできるかわからないので、それを調べるための焼結炉が何台かおいてある試験室があります。その点からも顧客に対する意識を感じ取りました。また、従業員の中には大学時代のインターンシップが縁で入社した人がいました。これは、大学と企業との連携が強いと思いました。学生は在学中に希望の企業を見つけることができ企業側も優秀な学生を見つけることができるので互いにとって利点になると感じました。

5. 大学訪問

8月24日に University of California, Davis (UC Davis) へ訪問しました。この大学はもともと UC Berkeley の農業学校として設立され、そのあとに学部が増え UC Berkeley から独立して UC Davis として設立された経緯があります。そのため、農業において強く、ワインの研究のためのぶどう園があるほどです。キャンパスの面積はカリフォルニア大学の中では最大面積であり、キャンパス内には飛行場が存在するほどです。そのため、学生は基本的にキャンパス内の移動を自転車で行っています。

学生の40%は留学生です。このことから、海外から学びに来るほどの魅力的な学校だと思いました。現に図書館が一晩中開いていて、学生の学習のための施設があり、先生たちも夜遅くまで残っていて、学生も泊まり込みで研究をしているとのことでした。図書館が一晩中開いているのは印象的でした。大抵の場合図書館は夜閉まっているため、夜に調べたいことがあっても朝まで待つ必要がありましたが、一晩中開いているので気になった時に調べることができます。自由に勉学に励めるという点が研究に打ち込むには最適だと思いました。

また、勉学だけでなく芝生の広場やフィットネスクラブがあり、気分転換ができる施設がありました。特に驚いたことは、ハンモックがあつてゆっくりできるところでした。休憩時間にはしっかり休憩するというメリハリが勉学の意欲を高めるのにつながると感じました。また、学生は学費を自分で払っているのも印象的でした。

6. おわりに

今回の演習は2週間という短い間でしたが、多くのことを学べたと思います。また、参加する前は不安に感じていた海外での生活も行く前と比べるとなくなったように思います。英語の学力については上がったかどうかは正直なところわかりません。しかし、実際に海外の文化に触れることで視野が広がったように思います。特に、海外に関する意識は海外に行く前と比べて格段に変わりました。また、私に足りないものが演習を通してわかりました。この演習に参加してよかったと思います。この経験を活かしてこれからも勉学に励み、また、将来に役立てていきたいと思っています。